

令和2年度和歌山県文化奨励賞

お のえ きく ゆき こ さか むね ひさ
尾上 菊透(本名 小坂 宗久)

住 所 東京都中央区
出 身 地 和歌山県和歌山市
生 年 昭和55年

◎ 業績及び経歴

昭和55年和歌山市に生まれる。3歳から日本舞踊を始め、藤間勘操妙に師事。平成7年に尾上菊啓に師事。平成27年より上京し、尾上流四代家元三代目尾上菊之丞に師事、内弟子として修行を重ねる。

昭和58年わずか3歳にして、その年、藤間勘操妙の会「長唄 関の小万」にて初舞台を踏む。以降、尾上流公演「尾上会」「菊寿会」他、日本舞踊協会主催「日本舞踊協会公演」「新春舞踊大会」「新作公演」等に出演し、日本舞踊家として着実に経歴を重ねる。中でも、若手舞踏家の登竜門ともよばれる「新春舞踊大会」においては、平成30年から3年連続で入賞を果たしている。

尾上流は、歌舞伎の尾上宗家六代目尾上菊五郎によって創立された。五代尾上菊五郎の芸脈に、九代市川團十郎の舞踊観、さらには、宗家藤間流の舞踊が六代目尾上菊五郎の踊りとして統合されたもので、「品格・新鮮・意外性」という言葉に表現されるように、意欲的な創造性を流派の特徴としている。

流派の中でも氏の活躍は幅広く、令和元年12月に上演され大好評を博した「新作歌舞伎 風の谷のナウシカ」に出演したほか、師である尾上菊之丞が指導・監修しているNHK Eテレ「にっぽんの芸能」内の日本舞踊体操にも出演している。

また、歌舞伎公演、宝塚歌劇、ミュージカル、花柳界の舞踊の振付指導や各種演劇の所作指導を行うなど、伝統的な日本舞踊の舞台において自身の舞のみならず、分野を超えて日本舞踊による新たな表現を創造することに成功している。

日本舞踊の道を極めるべく、幼少期から研鑽を重ね、見事にその才能を開花させている姿は、今後本県の古典舞踊界を担う人材として、更なる活躍が大いに期待されている。

■ 現 在

・日本舞踊家

◆ 主な表彰歴等

平成30年 日本舞踊協会主催「新春舞踊大会」奨励賞
平成31年 日本舞踊協会主催「新春舞踊大会」大会賞
令和2年 日本舞踊協会主催「新春舞踊大会」奨励賞